

# 特別委員会調査報告

平成27年 3月25日

薩摩川内市議会

川内原子力発電所対策調査特別委員会

委員長 森 永 靖 子

## 1 委員会の開催日

3月19日

## 2 川内原子力発電所の安全対策に関する調査

- ・ 原子力規制委員会における工事計画認可の審査状況等及び再稼働までのスケジュールについて

九州電力(株)から参考人を招致し、原子力規制委員会における工事計画認可の審査状況等の説明を求めた。

まず、1号機の工事計画認可申請については、2月27日に原子力規制委員会へ補正書を再提出したが、自主的に記載内容の適正化を図る観点から精査を行い、3月10日と16日に補正書を再提出し、18日に認可されたとの説明を受けた。

また、2号機の工事計画認可申請については、4月中旬に補正書の再提出を予定しているが、これに合わせて保安規定変更認可申請の補正書を再提出する予定であるとの説明を受けた。

次に、再稼働までのスケジュールについては、工事計画認可後に安全対策設備の使用前検査を受検することとなるが、1号機の申請は3月19日に行う予定であるとの説明を受けた。

なお、使用前検査（再稼働前）後は、原子炉の起動工程に入り、各種機能検査を受検した後に、発電を開始し再稼働となるが、最終的な検査である国の総合負荷性能検査に合格すると通常運転に復帰することとなるとの説明を受けた。

次に、発電所における安全対策の実施状況、安全対策資機材等の配置状況、重大事故への対応訓練状況について説明を受けた。

なお、調査の過程において、火山の爆発により発電所の運転に影響を及ぼすような場合の使用済み核燃料搬出等についての質疑があり、「火山による影響評価の審査を受けており、今後も火山学者を入れたモニタリングを継続していくこととしているが、爆発の兆候が見られた場合の対応については、保安規定に盛り込んでいる」との答弁があった。

また、避難対策に対する事業者の支援について質疑があり、「3月5日にPAZ圏内の要援護者の避難手段として、福祉車両を16台配備したが、バスの確保についても、現在、バス会社と協定締結へ向けて準備中である。また、屋内退避施設に食料・飲料・電化製品・医薬品等を配備する予定である。なお、緊急時におけるオフサイトセンター及び屋内退避施設の非常用電源用

の燃料供給については、昨年 1 2 月に地元の燃料会社と燃料運搬・補給の覚書を締結している」との答弁があった。